

特達坂の車道あり。又西して鐵列克達坂を經安集延に至る馱獸路あり。其他數條の山路あれども、單に山中に遊牧する土人の交通路に過ぎず。

葉爾羌よりカシミヤを經て印度に通ずる兩路、一をギルギット道と曰ひ、一は即ち喀喇崑崙山道なり、共に其の險難なること日誌中に具載せり。又葉爾羌より塔什庫爾干を經バダクシヤンに到る山路あり。

道路の沿革を考ふるに、漢の時代には支那本部より西域に通せし道路二條ありき。一は陽關を出て、瑪海戈壁を經由し、羅布淖爾附近より和闐、葉爾羌、英吉沙爾を經西行葱嶺を越ゆるものを南道と曰ひ、一は玉門關を出て吐魯番、喀喇沙爾、庫車より、喀什噶爾に到るものを北道と稱せり。隋の時に至り、更に現時の北路を加へて三道とし、漢代の北路を中路と更めたり。元の世、西域人の蒙古に交通するには、皆齋桑湖より額爾齊斯河谷に沿うて東し、又蒙古人の西域に到るには、赫薩爾巴什湖より烏隴古河に沿ひ、烏魯木齊に出るを常とせり。今の塔爾奇山路は、元の太祖の時始めて開通し、其後伊犁と塔爾巴哈臺とを連絡する爲め、三臺、雅瑪圖間の山道を開きたりと云ふ。明代に至り、準噶爾人の天山南路に往來する者、孰れも那喇特山